

## 計画（素案）に対する主な意見及び区の考え方

No.	意見の概要	区の考え方
第3章 計画の方針		
3. 計画の進行管理		
1	関係する部署がバラバラに動くのではなく、一体となって取り組んでほしい。そのために、関係部署が一同に会する会議体を設けて、しっかりモニタリングをしてほしい。	それぞれの担当部署の取り組みがきちんと進んでいるかを確認しながら、関係機関がしっかり連携できるようにしていきたいと考えている。
第4章 取組の展開		
犯罪・非行予防		
1. 非行の防止・学校と連携した就学支援等		
2	非行予防の観点で、教育のあり方も踏まえて考えてほしい。	第4章の取組の展開において、区立小中学校における具体的な取組についても記載している。子どもたちの成長の段階に応じた指導・支援をしていきたいと考えている。
3	学習支援活動や居場所づくりなどの取組については、保護者だけでなく、子どもたち自身にも情報が届くよう、発信方法を工夫してほしい。	子どもたち自身が情報を受け取り、自ら選択することは重要であると考えている。子どもたちに届きやすい形での情報発信に努めていきたい。
2. 孤独・孤立対策と連動した取組の推進		
4	犯罪被害者への支援の一環として、特殊詐欺など金銭的な被害を伴う犯罪においては、加害者が金銭を返還して償うということも考えられる。そうした人が出てきた時の支援の方法を検討してほしい。	犯罪被害者及び加害者双方の立場に配慮しながら、支援のあり方を検討し、さまざまな状況に応じた支援に取り組んでいきたい。
立ち直り支援		
1. 就労・住居の確保等		
5	更生保護施設は、更生保護事業法の改正により、その役割が拡充されており、地域の拠点としての機能も担うこととなっている。敬和苑では、更生保護関係者だけでなく、地域の方も含めた「敬和苑フェスティバル」を開催している。こうした取組全般に対して支援してほしい。	地域の理解と協力を得ながら更生保護の取組を進めていくことは、非常に重要であると考えている。 また、更生保護施設の説明箇所について、取組内容の記載を追加する。
6	対象者は、住民登録に関して課題を抱えていることが多い。住民登録は基本的人権の第一歩であり、その手続きがスムーズに進むことが重要である。 また、住居の確保や福祉施策など、支援が必要な人に速やかに支援が届くようにしてもらいたい。	対象者が速やかに必要な支援を受けられるよう、包括的な支援体制と協力体制の構築を進めていきたいと考えている。
7	対象者の中には生活保護を受ける方もいる。その方々には民生児童委員が関わることも多くあるが、民生児童委員が更生保護について知る機会が少ないのではないかと。	更生保護に関する理解を深めるためには、様々な関係者や地域住民への周知が重要だと考えている。 “社会を明るくする運動”などの取組を通じて広く周知を行っているところであるが、今後は、関係機関等が更生保護の知識を得られる機会をさらに充実していきたい。

No.	意見の概要	区の考え方
8	【コレワーク】は、事業主の方が刑務所出所者等を雇用するための各種サポートをする機関であり、説明を修正してほしい。	【コレワーク】の説明について、より活動内容が伝わる表現に修正する。
9	【矯正協会】は、矯正や刑事政策に関する調査・研究、資料収集、書籍の出版や講演会の実施とともに、受刑者の改善更生や社会復帰支援の一環として刑務所作業製品の販売事業者や矯正行政への協力団体等に対する各種助成を行っているため、計画に記載している説明を修正してほしい。	【矯正協会】の説明について、より活動内容が伝わる表現に修正する。
2. 保険医療・福祉サービスの利用の促進等／犯罪をした人等の特性に応じた効果的な支援		
10	対象者の中には、自己肯定感が低い状態が続いている人もいる。カウンセリング体制を充実するなどして、自己肯定感を高めるような機会を考えてもらいたい。	支援が必要なすべて人に対して、それぞれの状況に応じた切れ目のない相談支援を提供できるよう、相談支援体制を強化していきたいと考えている。
11	困ったときに、どこにSOSを出せばよいかが一目でわかるチラシがあると望ましいが、それでもどこに相談するか迷うケースが多い。そのため、最終的にどんな相談でも受け止められる「最後の受け皿」が必要であると考えている。	相談者の生活状況によって、必要な支援や適切な相談窓口は異なる。そのため、適切に支援に結びつけるためには、われわれ職員の相談対応スキルをさらに向上させる必要があると考えている。また、関係機関がしっかり連携して、切れ目のない相談支援体制を構築していくことも重要であると考えている。
地域づくり		
1. 民間協力者の活動の促進、広報・啓発活動の推進等		
12	保護司を含め、再犯防止推進に関わる人材の確保が課題となっている。近年では、ボランティアの減少や支援者の孤立も問題となっている。こうした状況を踏まえ、情報発信を通じて孤立している支援者を把握し、孤立を防ぐような取組を進めてほしい。	再犯防止推進に関わる人が孤立することのないよう、関係者及び関係機関との連携体制を強化していきたい。
13	【BBS会】は、様々な生きづらさを抱える子ども・若者に、兄や姉のような身近な存在として寄り添い、その一人ひとりが自分らしく前向きに生きていくことを支えていく青年ボランティアであり、計画に記載している説明を修正してほしい。	【BBS会】の説明について、より活動内容が伝わる表現に修正する。
3. 新たなまちづくりと連動した地域づくり		
14	町会連合会と保護司会の連携など、他の団体との連携が必要だと思う。	現時点では、団体間の連携は十分ではないと考えている。今後は、関連団体同士の連携を強化できるような機会を設けていきたいと考えている。
15	関連団体との連携については、現場では動きづらい部分もあるので、区が主導して進めてもらいたい。	進捗状況の管理をしながら、庁内・庁外ともにさまざまな機関が連携していける体制を構築していきたい。
16	区内に大学が増えてきているが、地域との連携や地域づくりの観点から、大学も地域の一員として重要な役割を果たせるので、区から連携を働きかけてほしい。	現在も、区内大学の薬学部の学生たちと協力して、薬物乱用防止に取り組んでいる。学生による発信の方が、子どもたちに伝わりやすい場合もあるため、今後も大学と連携した取組を増やしていきたい。